

歴史資源活用の方角

当公園には、古事記の時代から続く「海の守り」のために尽くしてきた人々の歴史があります。園内各所で「砲台跡」等の近代化遺産を見ることができ、小説『坂の上の雲』に象徴される日本の近代化を推し進めた明治の人々の時代の息吹が感じられます。「戦没船員の碑」では太平洋戦争の悲しい歴史が後世に伝えられています。その貴重な歴史資源に光を当て、保全・活用し、明確な利用ルートの設定やサイン・ガイドによる解説、広報誌の発行等の充実によって積極的に情報発信をすることで、凡例

凡例

- 東京湾要塞関連の遺産
- 古墳時代の横穴
- その他の歴史遺産
- 歴史ツアーメインルート
- 歴史ツアーサブルート

※ ルート上にある歴史資源には解説サインを設置する

走水神社

弟橘媛(オトタチバナヒメ)がみずから入水して海神の怒りを鎮め、夫の航海の安全を図ったという伝説にちなみ、創建された古社。

切り通し

要塞時代、軍事物資の運搬のため山を切り開いた。

旧火薬庫

- 歴史的な建物を活用して管理施設の整備
- 展示等にも利用できる場所として整備

かつては、火薬庫だった施設。それを戦後改修し、宿泊施設「青少年の村」として利用していた。(H22年度まで県青少年課が運営→H23年4月から建物はそのまま運営廃止。)

戦没船員の碑 (大浦砲台跡)

太平洋戦争中に亡くなった6万余人の民間船員の霊を慰め、その苦労を後世に伝えるための場所となっており、追悼式には天皇、皇后両陛下も参列されている。

たたら浜横穴群

横穴は7世紀～8世紀の墳墓である。山腹に屍を納める穴を掘って墓所とすることは古くから行われていたようである。

三軒家砲台跡

砲台跡、観測所、地下弾薬庫など比較的良好に保存された施設であり、バリエーションも多い。

まとまった砲台群を紹介するエリアとして整備

北門第二砲台跡

かつては砲台が6ヶ所建設されていたが、海上交通センター建設のため、現在は3つのみ。

この洞窟沖でオトタチバナヒメが入水した。海を鎮めた霊を慰めるため、741年に奈良の高層「行基」が観音像を彫り、この洞窟に納めたと伝えられる。

権現洞

江戸時代に、観音崎の由来となった「仏崎山観音寺」や「お茶屋」があった場所。1880年に軍の要塞化のため、亀崎に移設された。

観音寺総図

福島高峰「相中留恩記略」(1812年)より

観音崎灯台

灯台守の夫婦の半生を描いた映画「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台。日本で最初の洋式灯台で現在3代目である。

北門第一砲台跡

1880年建設の日本で最初の近代砲台。園内で残されている砲台跡の中で一番規模が大きい。

第3砲台跡 (第一展望台)

28センチ榴弾砲

・展望・休憩場所の整備

小説「坂の上の雲」にでてくる砲台跡。トンネルを抜けたところに設置されているこの施設は、周辺が展望台として整備されている。

ジョナサン・スウィフトの『ガリバー旅行記』には、「・・・日本の東端の港ザモスキに(一説には、観音崎のこと)着き、・・・」とある。公園イベント「観音崎フェスタ」では、毎年ガリバーにちなんだ催しが行われている。

0 50 100 200m